

所属・氏名（薬学部 薬学科 氏名：遠藤 利昌）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) <i>The Trumpet-Major</i> 再読	単著	2007年2月	広島修大論集第47 巻第2号(人文編)	<p>論文全体の概要： Hardy の中期にあたる3つのテキストは、これまで ‘Recession’ の時期の小説であると見なされ、あ まり評価されることがなかった。<i>The Trumpet-Major</i> も、‘Entertainment’ であるとし て、所謂、Hardy のマイナーな作品として片付け られてきた。しかし、このテキストの主人公 John Loveday は、この作品以前の男性主人公たちの ように、「勤勉」で「真面目」な主人公でありなが ら、立身出世をしたり、意中の女性と結婚したり することなく、それどころか戦死してしまう。つま り、この小説はそれまでの Hardy の小説とは違っ て、単純なハッピーエンドが達成されず、後期の 悲劇を予感させるものとなっている。本論は、こ のような転換点を示す作品であるにも関わらず、 重要視されることのなかった検証しながら、「再 読」を試み、表面上、‘Entertainment’ 的本作品 の中に、転覆の要素の抽出を試みた。 (当該論文のページ数： 17 頁) (当該論文の著者名 遠藤 利昌) (単著)</p>
2 (学術論文) <i>The Return of the Native</i> 論 —リアリズムの伝統への挑戦と しての悲劇の開花	単著	2006年2月	広島修大論集第46 巻第2号(人文編)	<p>論文全体の概要： これまで物語の悲劇的舞台であるエグドン・ヒー スに相応しい象徴的な登場人物として捉えられ てきた Venn を、リアリズム小説の伝統の中で検 討しなおしていった。具体的には、十九世紀の 作家は合理性と真実性のあるリアリズムの伝統に 則った小説を描くことを求められ、それを実践す ることは、そのまま当時の道徳的なイデオロギー を合理的に証明していくことを意味していたとい うことを示して生き、そこから Venn という「勤勉」で 「献身的」な登場人物が、物語の最後に報われる ことが持つ意味を検証していった。 (当該論文のページ数： 17 頁) (当該論文の著者名 遠藤 利昌) (単著)</p>